



「読むこと」と「書くこと」を往還し，対話で深める 国語授業の創造

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-09-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長屋, 樹廣 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000032

「読むこと」と「書くこと」を往還し、対話で深める国語授業の創造

長屋 樹 廣

キーワード 対話 往還 魅力 学習計画 解説 推薦

1 はじめに

本稿は、「『読むこと』と『書くこと』を往還し、対話で深める国語授業の創造」というテーマで、「椋鳩十作品の魅力」を『解説書』で推薦し合おう～大造じいさんとがん～の単元を中心に論述する。大西(1993)、倉沢(1979)、倉沢(1993)、西郷(1986)、鶴田(1997)、二瓶(2013)、長屋(2022)などの先行研究の概要は割愛するが、参考にしながら実践に取り組んだ。(注1)

「小学校学習指導要領解説 国語編」の第5学年及び第6学年「読むこと」における指導事項に、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること」と示されている。登場人物の相互関係などを手掛かりに、その人物像や物語などの全体像を思い描き、優れた叙述に着目しながら様々な表現の工夫の効果を考えたい。(注2)「大造じいさんとがん」を取り上げたのは、登場人物同士の関わりから、物語の全体像を読む力を育むのに最適な教材文だと考えたからである。さらに、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることや、まとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げるなど、「読むこと」と「書くこと」を往還しながら、互いの考えの違いを明らかにし、対話で深める学習活動が期待できる。

「大造じいさんとがん」は、猟師である大造じいさんと自然の中に生きる鳥、残雪とのかかわりが、美しい情景描写とともに生き生きと描かれた作品である。色彩豊かな情景の描写や文語調の語り口など表現上の工夫や特徴に着目し、情景描写と人物の心情変化を照らし合わせたり、猟師としてのじいさんの思いや行動に共感したりしながら、優れた叙述を味わえるようにしたい。さらに、作品中の表現の効果等に対して、評価的な視点を持ち、自分の考えをまとめながら読んでいきたい。

具体的には、本単元は3次で構成する。

第1次では、小学校第5学年の子どもの書いた「大造じいさんとがん」の書評や椋鳩十本人の言葉を紹介することにより、作品のよさを味わう視点や学びの見通しをもちながら、子ども自身が読みの目的意識をもつための工夫を行う。「なぜ、このような書評を書いたのか。」「感動はどこから生まれるのか。」と読みの視点を絞ることにより、学びの見通しをもち、その価値を自覚しながら、作品のもつ表現上の工夫に着目し、優れた叙述を味わえるようにする。

第2次では、解説書で物語の魅力を紹介し合うことを見通して、「あらすじ」「人物関係」「表現の効果」「作品の魅力」「見方・考え方の変化」等、一人一人の学習計画に合わせて、様々な視点から読んでいく。「読むこと」と「書くこと」を効果的に往還しながら、対話で学びを深めていけるようにしていく。

第3次では、解説書を書き、作品の魅力を伝え合う活動を行う。情景描写を含む、自分の魅力的だと思う表現を基に、グループ内で発表し合い、コメントを伝え合うようにし、自らの学びの成果を実感できるようにしたい。

2 単元のデザインについて

(1)単元の目標

物語の魅力や『解説書』に書いて推薦する言語活動を通して、大造じいさんの言動や心情描写及び情景描写等に着目することで、残雪との相互関係をとらえ、心に残る優れた叙述や作品の全体像についての自分の考えをまとめながら読むことができる。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしたり、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使ったりすることができる。	ア 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。 イ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。	ア 作品の叙述を比較するなどして読み、わかったことや考えたことを話し合ったり、文章にまとめようとしたりしている。

(3) 単元のデザイン (全8時間)

時数	○主な学習活動	評価の観点			学び合いの過程 手立て
		知	思	主	
1	○椋鳩十作品の解説書の言葉「感動は心の扉を開く」を紹介することで、感動は作品のどの部分にあるのかを考えながら目的意識をもって作品を読めるようにする。 ・解説書のモデルを見て、単元のゴールを見通す。 ・解説書で物語の魅力を推薦し合うことによって、自分の読書への価値観が広がるかもしれないという期待感をもてるようにする。	ア			・椋鳩十「感動は心の扉を開く」 「解説書のモデルを読む」ことで、単元の見通しと、作品を読む目的意識をもてるようにする。
2 3	○解説書を記述することを見通し、「大造じいさんとがん」のあらすじを大まかに読む。 ～あらすじを読む～		ア		・大造じいさんの立てた作戦を中心に、あらすじを大まかに読むことができるようにする。
4	○解説書を記述することを見通し、大造じいさんと残雪の人物関係を読む。 ～人物関係を読む～		ア		・大造じいさんと残雪の相互関係に関する表現に着目し、人物関係を読むことができるようにする。
5	○解説書を記述することを見通し、「あかつきの光が～」や「東の空が真っ赤に燃えて」などの情景描写と大造じいさんの心情を照らし合わせて読む。 ～表現の効果(情景描写等)を読む～		ア		・「東の空が真っ赤に燃えて」などの情景描写と大造じいさんの心情変化と照らし合わせるようにする。

6 (本時)	<p>○物語の「自分がお薦めする場面」について解説書の作品の魅力の「骨の文」を書く活動を通して、優れた叙述や登場人物の見方・考え方の変化を関連付けながら場面の移り変わり(物語の全体像)を読み、自分の推薦する場面について考えをまとめる。</p> <p>・「銃を下ろしてしまったという行動」「強く心を打たれた理由」に着目することで、大造じいさんの残雪に対する見方・考え方の変化を考える。</p>		イ		<p>・「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかったのは、どうしてか？」など、物語の全体像を明らかにするための矛盾点を考えさせたり、「『感動は心の扉を開く』とはどういうことか」など、学びの必要感のある問い返しをしたりすることで、子供相互の対話を活性化させていく。</p>
7 8	<p>○大造じいさんとがんの解説書を書き、学級で紹介し合う。</p> <p>・大造じいさんとがんの解説書を学級で読み合うことで、読書カードにも生かせそうだという学びの実感を得ることができるようにする。</p>			ア	<p>・読みの目的意識と「大造じいさんとがん」の教材文の解釈をつなげることができるようにする。</p>

3 本時の展開について

(1) 本時の目標

物語の山場とその理由を考える活動を通して、優れた叙述や登場人物の見方・考え方の変化を関連付けながら場面の移り変わり(全体像)を読み、物語の魅力について考えをまとめることができる。

(2) 本時の展開(6/8)

学習活動 ○教師の働きかけ・発問(△補助発問, □指示・説明)	指導上の留意点
<p>1 前時までの活動を想起し、本時で考えることの見通しと必要感をもつ。</p> <p>○物語の魅力を紹介するために、「人物関係」「優れた表現」の他に必要なことはありますか。</p> <p>・物語の魅力を紹介するためには、物語の山場の場所をはっきりさせたい。山場を見つけて、理由を考えることが物語の魅力を紹介することにつながるかもしれない。</p> <p>物語の「山場」と言える場面とその理由をはっきりさせて、作品の魅力について考えよう。</p> <p>2 「大造じいさんとがん」を読み、物語の山場とその理由を交流する。</p> <p>・私が山場だと思ったのは、7場面の「さあ、いよいよ戦闘開始だ。東の空が真っ赤に燃えて、朝が来ました。」のところ。情景描写も使われている。 →大造じいさんの思いの高まりは感じられる。でも、山場は登場人物の心情ががらっと変わるところだから、山場と言える理由としてははっきりしてないかもしれない。 ・ぼくが山場だと思ったのは、7場面の「大造じいさんが銃を下ろしてしまった」のところだよ。きっと大造じいさんの気持ちが変わったから。 →なるほど。銃をおろすってことは、今まで、「たかが鳥」やいまいましく感じていた残雪への気持ちがなくなったのかもしれない。 ・やっぱり7場面の「ただの鳥に対してしているような気がしませんでした」のところだ。山場だと思う。仲間を助ける姿や頭領らしい、堂々たる態度から見方が変わったと思う。 →そうだね。強く心を打たれたって書いてある。私も、○○さんと同じところが山場だと思う。</p>	<p>・必要に応じて、前時までの児童の発言やノートの記述を提示し、本時で考えることの見通しと必要感をもてるようにする。</p> <p>・自分の考えが整理できない児童に対し、他の児童の記述や発言の中から一番納得いくものを選択するよう促したり、組み合わせて考えるよう伝えたりする。</p> <p>・大造じいさんの残雪への見方・考え方の変化を捉えている児童を意図的に指名し、残雪への見方の変化を学級全員で共有できるようにする。</p>
<p>3 物語の山場はどこなのか、叙述を根拠に[精査・解釈]する。</p> <p>○大造じいさんが銃を下ろしてしまったのはどうしてか。</p> <p>○強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしなかったのはどうしてか。</p> <p>・じいさんが猟銃を下ろしてしまった7場面は、これまでの残雪に対する気持ちが変わったと言っていいんじゃないか。 →銃をおろしたのは、残雪とはやぶさの戦いを目の当たりにしたから。 →でも、この場面で何年も捕まえようとしても捕まえられなかった今までのいまいまさがなくなったのか。いまいまさなくなったというよりは、残雪の仲間を助けようとする迫力に驚いて銃を下ろしたのかもしれない。 ・7場面の大造じいさんが残雪から頭領の威厳を感じ、「ただの鳥に対してしているような気がしなかった」ところだ。 →きっと、傷ついていても最後まで堂々とした態度でじいさんと向き合った残雪に心を打たれる。ここで相手をライバル・自分と同等以上の存在として認めたと思う。</p>	<p>・必要に応じて、「感動は心の扉を開く」という作者の言葉を提示する。</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、お薦めしたい場面とその理由を決めて、解説書の作品の魅力の「骨の文」(中心となる文章)を書く。</p> <p>・私は、残雪を「たかが鳥」と見下していた大造じいさんが、命がけでハヤブサから仲間のガンを助け、けがをしても人間をにらみつける残雪の姿を見ることによって、残雪を「いかにも頭領らしい堂々たる態度」と尊敬するようになったという大造じいさんの見方の変化を書きたい。 ・大造じいさんは、残雪をただの仕留めるべき獲物ではなく、「ガンの英雄よ」と呼びかけたように、自分と同等以上の存在として認めたことを書きたい。</p>	<p>◇物語の山場とその理由を考える活動を通して、優れた叙述や登場人物の見方・考え方の変化を関連付けながら場面の移り変わり(全体像)を読み、物語の魅力について考えをまとめることができる。【思】</p>

「するぞうくん(本学級のキャラクター)が、こんな感じで書いてみたのですが、イメージできそうですか?」と言う。「あ〜なるほど、『お薦めしたい表現』、『人物関係図』、『作品の魅力』ね。これなら、イメージできるよ」、「感動は心の扉を開くということとの関連もあるね」、「これで学習計画がしっかりと立てることができそうだね」という話になった。

「解説書を書いていくために、大体のあらすじをとらえて・・・」、「そして、人物関係、優れた表現、作品の魅力をやんでいくといいよね」という話になった。教師の例示に促されつつ、単元の大部分が児童の力によって、積極的に納得をしながら、学習計画を立てていくことができた。

学習目的の理解 (見通し)

動物たちが出てくる物語文ですね!

自分たちが学習していることを、学級の友達と推薦しましょう!

「大造じいさんとがん」の魅力を解説書で推薦し合えるように読んでいきましょう!

「大造じいさんとがん」

↓

椋鳩十作品を解説書で推薦し合おう!

【学習計画】

解説書を書くことを見通し「大造じいさんとがん」を読む

一	「大造じいさんとがん」を読み、学習計画を立てる。
二	「大造じいさんとがん」の「あらすじ」を読む。
三	「大造じいさんとがん」の大造じいさんと残雪の人物関係を読む。
四	「大造じいさんとがん」の推薦したい優れた表現を読む。
五	「大造じいさんとがん」の「クライマックス場面とその理由」を考え、作品の魅力を読む。
六	「大造じいさんとがん」の解説書を書き、推薦し合う。

図2 単元の見通しの揭示物

このように、作品に関するキーワードやモデルを提示するという手立てを講じることで、「大造じいさんとがん」で考えるべき課題について見通しをもつことができた。児童たちが、学びの必要感・積極的な納得感をもって、単元デザインをスタートすることができた。5年生段階としての単元の目標を踏まえて、「教師の学ばせたいこと」と「児童たちが学びたいこと」を一致させる[学習目的の理解(見通し)]ができれば、次時以降の学習過程がスムーズになっていく。

(2) 構造と内容の把握

次ページの図3の「大造じいさんとがんの星座表」は、児童 A の単元を終えた時の完成版である。この「星座表」は、叙述を基に、「大まかなあらすじはどのようになっているのか、既習事項を生かして作品の内容を捉える」など、文章の構成や展開を捉えたり、内容を理解したりしたことを積み重ねながら「大造じいさんとがんの星座表」として記述したものである。目的に応じて必要な情報を見い出して精査や解釈したり、既有的知識

や体験と結び付け自分の考えを形成したりする段階を経て、毎時間、「大造じいさんとがんの星座表」が更新され、単元の最後に完成したものである。

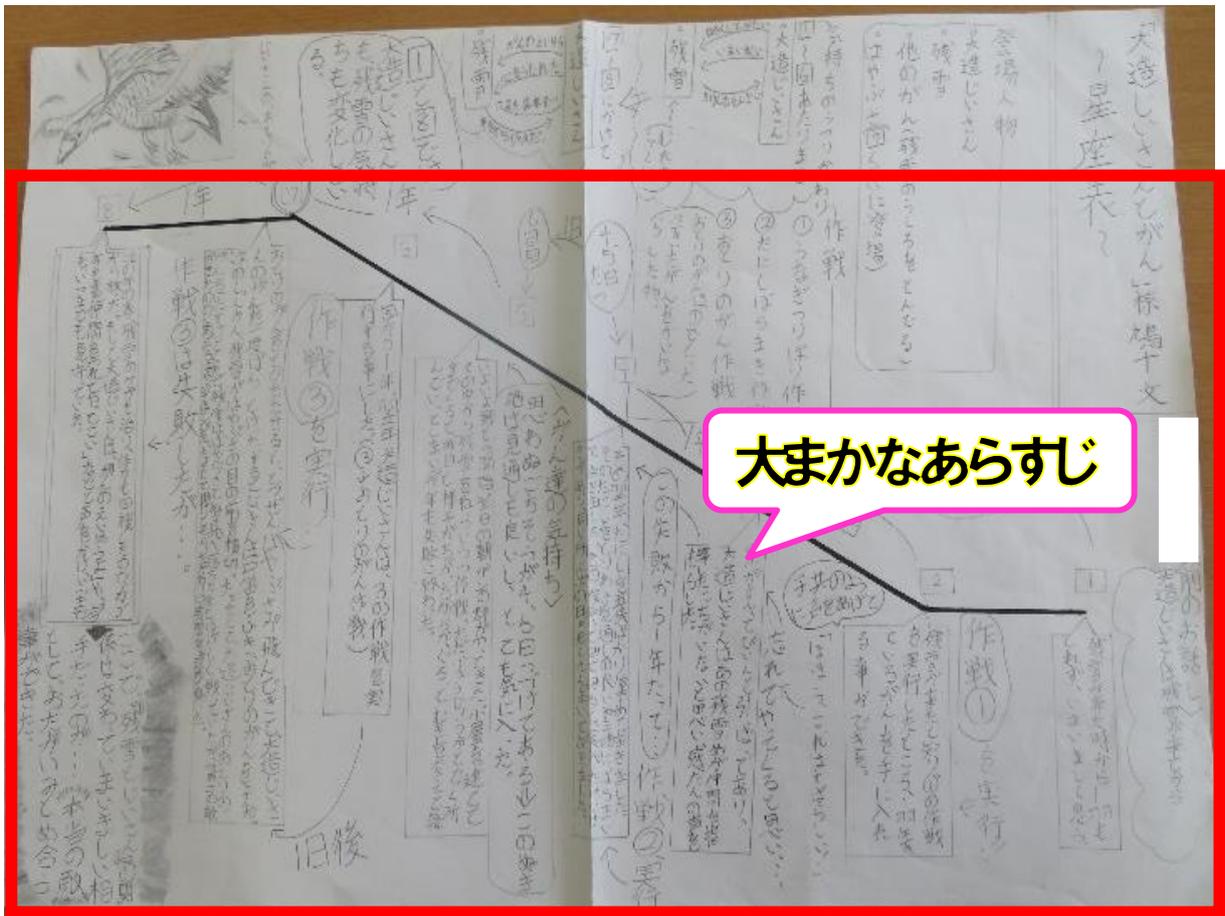


図3 「大造じいさんとがん」の星座表

下の板書は、2・3時間目で、「作品の全体像」を捉えての意見交流の様子である。単元の1時間目に、「あらすじの大体を捉える必要があるね」と発言していた児童Aが、2・3時間目には「これで全体像が見えたね」と発言し、単元としてのストーリーが繋がった。



図4 「構造と内容の把握」の板書

(4) 考えの形成

考えの形成

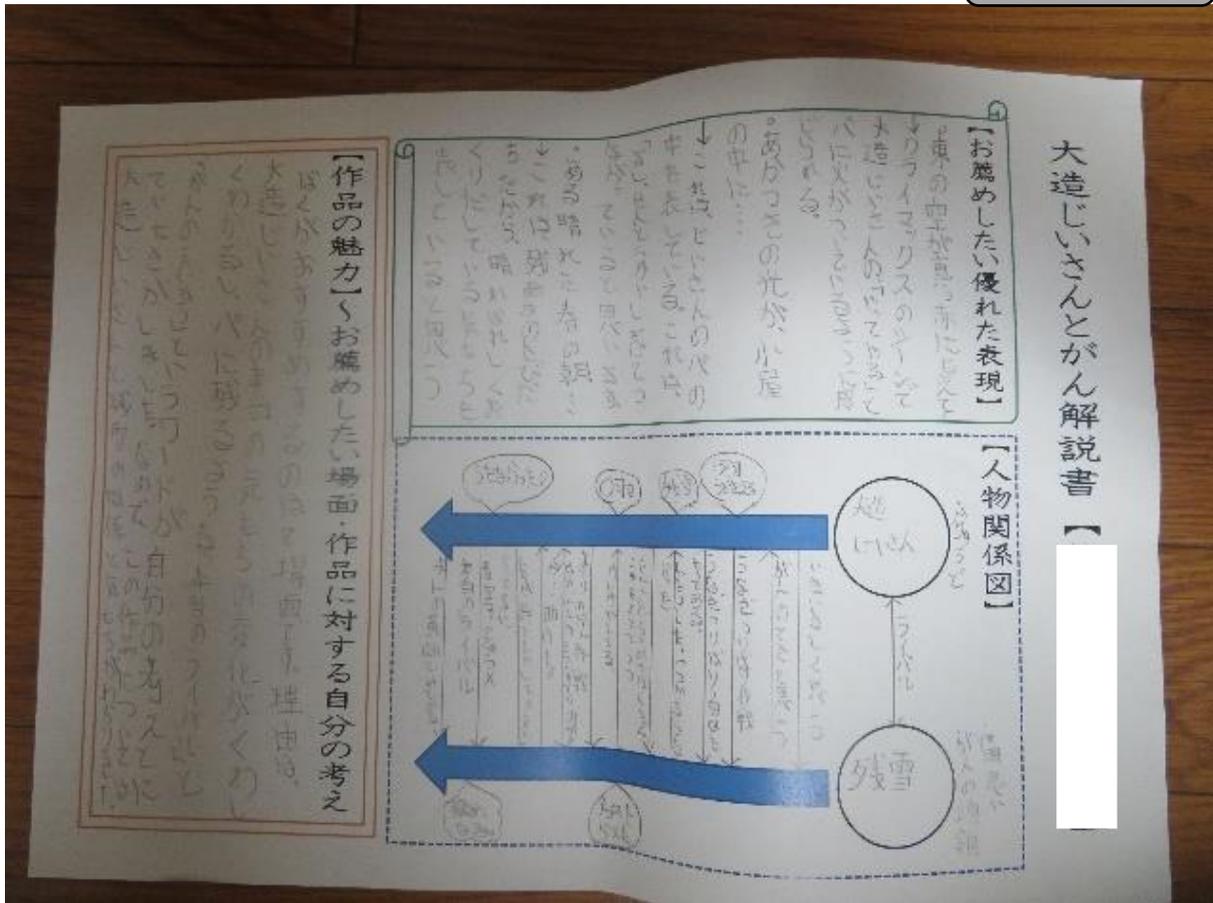


図6 「大造じいさんとがん」の解説書

児童Aは「お薦めしたい優れた表現」「人物関係図」「作品の魅力」等、今まで学級全体で話し合ってきたことや自分なりに理解したことを解説書にまとめることができた。

「お薦めしたい優れた表現」では、「東の空が真っ赤に〜」など、大造じいさんの気持ちの高まりについて記述したり、「人物関係図」では、大造じいさんと残雪の関わりについて端的に内容をまとめたりすることができた。また、「作品の魅力」では、「がんの英雄」「本当のライバル」という作品の主題にかかわるワードを入れて、作品に対する自分の考えをまとめることができた。自分のこれまでの学びを可視化することで、学びの成果を実感することにつながった。

(5) 共有

単元を通して、これまで各児童が、読んできた自分の考えやその根拠となる情報を書き溜めた星座表や大造じいさんとがん解説書を交流することによって、お互いのよさを認め合ったり、自分の学びの成果を実感したりすることができた。「作品の魅力を感じた部分は似ているけど、理由は少し違ったな」、「お薦めしたい表現とその理由のところなるほどと思ったよ」などと、友達の意見を聞き取りながら、自分にはない新たな視点を得ている姿が見られた。

共有



図8 共有の場

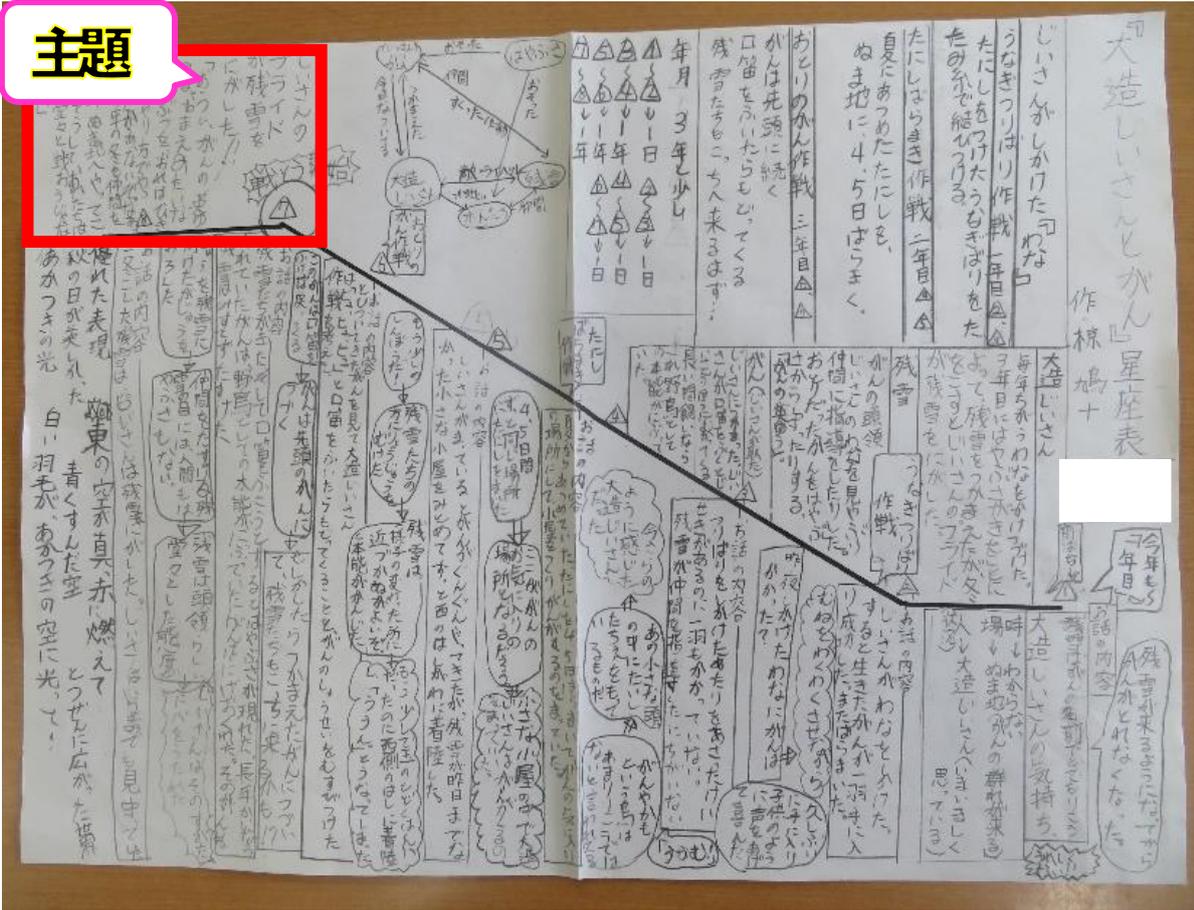


図7 「大造いさんとがん」の星座表

5 おわりに

今後も、「読むこと」と「書くこと」を効果的に往還しながら、対話によって学びを深化させることができる授業づくりの在り方を追究していく。また、子どもたちが「読む力」を確実に身に付けることができるようにし、学びの充実感・達成感を味わうことができるようにしていく。

【参考文献】

(注)

(1) 大西忠治(1993)『『大造いさんとがん』の読み方指導 教材研究の定説化』(明治図書), 倉沢栄吉(1979)「読解指導の方法」(新光閣書店), 倉沢栄吉(1993)「解説 国語単元学習」(東洋館出版), 西郷竹彦(1986)文芸研・教材研究ハンドブック9 『椋鳩十＝大造いさんとガン』(明治図書), 鶴田清司(1997)『『大造いさんとガン』の『解釈』と『分析』』(明治図書), 二瓶弘行(2013)『物語の「自力読み」の力を獲得させよ』(東洋館出版), 長屋樹廣(2022)「子ども思考が連続する授業づくり～子どもの「問い」を出発点として」(『月刊国語教育研究』608 2022年12月 日本国語教育学会)などの先行研究については別稿で行うこととする。

(2) 文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』(東洋館出版社)

(ながや たつひろ／北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程)